

No.16	提 案 名：若者が宇都宮を好きになる、より良い駅前のあるり方に向けた提案
	提案団体名：帝京大学 ライフデザイン（五艘クラス）
	所 属：帝京大学 経済学部 地域経済学科
	代 表 者：箭原健大、吉成菜里 指 導 教 員：五艘みどり
チーム メンバー	飯野亮大、加賀修也、丁思潔、星野輝、前田悠貴、三角凌士、宮澤大輝、森拓海、 山崎成将、山本聖生、渡邊颯斗

○ 提案の要旨 (Abstract)

本提案は、宇都宮市が目指す「ネットワーク型コンパクトシティ」構想のもと、2018年度より再開発される宇都宮駅東口のあり方について、地域の若者の目線から提案するものである。宇都宮駅は現在、地域住民にとって重要な交通拠点ではあるものの、それを超える多様なニーズを満たしているとは言えない。若者にとっても宇都宮駅は、魅力ある地域のシンボルになっていないのである。人口減少社会における課題は若者の流出を食い止めることであり、そのためには若者の地域への愛着がより高められることが重要である。本提案は宇都宮駅周辺を若者にとって魅力的な場所にして、若者の宇都宮への愛着心を高めることを目指している。本提案のために、若者向けに宇都宮駅周辺のイメージやニーズに関してアンケート調査を実施し、周辺の視察や商店街へのインタビュー調査を実施した。この調査結果をもとに、①若者の集う場所の形成としてフリースペース、②若者へ新たなカルチャーを発信する場所の形成としてイベントスペース、③若者がリラックスし健康になる場所の形成としての広場&散歩道の構想を提案した。

1. 提案の背景・目的

宇都宮駅はまちの中心であり地域の顔である。来訪者には地域の最初の印象を与えるものであり、住民にとっては地域の誇りを与えるものである。現在の宇都宮駅周辺を若者は、「古い」「暗い」「治安が悪い」「エンターテイメントがない」、利便性しかない「つまらない場所」、と言う。若者が街を好きになれば、将来的な人口流出も避けられる可能性もある。そのために宇都宮駅周辺は若者にとってもっと魅了ある場所に変化していく必要がある。こうした背景を受けて、本提案は若者が宇都宮を好きになる契機としての宇都宮駅周辺のあり方を提案するものである。宇都宮駅東口は2018年より再開発されることが決定し、同時にLRTの起点駅としても期待が高まっている。一方で、周辺商店街などは駅前の開発に期待をする反面、経営に対する危機を感じる店舗も少なくないと考えられる。本提案は、駅前の開発が若者にとって楽しく居心地の良いものになるだけでなく、周辺と連携して地域一体で街が魅力的に発展することを目指す。

本提案では、若者に向けてアンケート調査を実施し（2019年10月に実施）、駅前に求める機能等を明らかにする。また、可能な範囲で周辺商店街へ宇都宮駅東口開発についての意見をインタビューによって調査する（2019年11月に実施）。これらの一連の調査結果を踏まえて、今後開発される宇都宮駅東口に若者が求める機能と、周辺地域との連携のあり方について提案する。調査と提案の内容は、宇都宮市の「大学生まちづくり提案」での発表後に、帝京大学地域経済活性化センター年報と、帝京大学公式ウェブサイトなどでも公表を予定している。

2. 提案の目標・SDGs との関連

宇都宮市では「ネットワーク型コンパクトシティ」構想を掲げ、宇都宮駅東口から新たな交通網として LRT を整備し、同時に宇都宮駅東口を再開発することを決定し、2018 年から整備工事が開始されている。この内容は 2019 年に策定された「宇都宮市 SDG 未来都市計画」の「住み続けられる街づくり」に該当する内容となっている。LRT と宇都宮駅東口整備は、人口減少と著しい高齢化を迎える宇都宮市で、乗用車に偏る都市交通のあり方を変化させ、また市民の動線や居住のありかたを長期的に変化させるという大きなプロジェクトである。このプロジェクトに将来の市民の中核をなす現在の若者世代から提案することは重要であると考えられる。

3. 現状分析

3.1 宇都宮駅東口の現状

(1) 宇都宮駅東口の開発計画

本提案にあたり、宇都宮市駅東口整備室の方から出張講義をしていただいた。その内容を受けて開発計画を簡単にまとめておく。

宇都宮駅東口整備は、駅前 2.6 ヘクタールの土地に計 455 億円の費用をかけて市と民間企業が連携して開発を実施する（図 1 参照）。この土地の開発は以前から市で構想を練られていたが、リーマンショックなど経済事情から計画が凍結していたものの、ここに着てやっと開発が開始されるとのことであった。中心は市が整備するコンベンション施設であり、最大 2,000 人規模の国際会議を実施できる施設となる。そして、コンベンション参加者および増加するインバウンド旅行者の受け皿として高級ホテルとビジネスホテルの 2 棟を建設する。さらに、高度専門病院、商業施設、分譲マンションも建設される。これら建築物の中央には広場が設けられ、地域住民をはじめ多様な人々が集う場所を形成するとしている。この広場が LRT の発地である宇都宮駅と直結する予定である。施設整備の一部には、宇都宮市で産出される大谷石を使用し、植栽による緑化なども予定されている。



図 1 宇都宮駅東口地区整備事業の概要

出典：宇都宮市駅東口整備室資料，2019 年 11 月 21 日

(2) 宇都宮駅東口の視察調査

2019年11月18日に、ライフデザイン（五艘クラス）のメンバーで宇都宮駅東口において駅前の視察調査を行い、意見交換を実施した（表1参照）。現在の宇都宮駅東口の印象としては、「暗い」「寂しい」、道を一步それると「怪しい」などとネガティブな意見が多く、開発後には「明るく」「緑あふれる」ようになって欲しいという意見がでた。また開発においてはある程度ターゲットを絞ること、計画通りに進むことが重要という意見も挙がった。

表1 宇都宮駅東口視察調査から得られた意見

意見交換の項目	意見の内容
宇都宮駅東口前の現在の雰囲気	<ul style="list-style-type: none">・ 暗い、寂しい、などマイナスな意見が多かった。・ 現在駅前中央に餃子店のみで、ほぼ空洞の状態なので、開発でどこまで変えられるかが重要となってくる。
宇都宮駅東口周辺の商店	<ul style="list-style-type: none">・ 大通りについては大丈夫そうだが、少しそれた路地に行くと怪しい雰囲気という意見が目立った。・ 大通り沿いの店に関しては賑わっているが、駅南側の路地に入るとかなり閑散としており雰囲気も暗いので、それが東口前のイメージ悪化を助長している。
宇都宮駅東口周辺を歩く人の様子	<ul style="list-style-type: none">・ 通勤者や通学者といった回答が多かった。・ 多くの方は駅に黙々と向かっている様子で、買い物や飲食の為に歩いている人は少なかった印象を受けた。
宇都宮駅周辺が東口駅前開発でどのように変化すれば良いか	<ul style="list-style-type: none">・ 街灯が増えるなど明るく緑あふれる駅前になってほしい。・ 開発はターゲット層を絞るべきという意見も出た。・ 南側の路地は開発後にもっと入りやすくしてほしい。
その他	<ul style="list-style-type: none">・ 工事期間について不安を抱いている人が多かった。工期間が延びるのは避けて欲しいという意見があがった。



写真1 宇都宮駅東口視察の様子（学生撮影，2019年11月18日）

3.2 若者へ向けた宇都宮駅のイメージおよび機能に関するアンケート調査

(1) 調査の概要

本提案では 10-30 代を中心とする若者へ向けて、宇都宮駅のイメージおよび欲しい機能に関するアンケート調査を実施した。概要の詳細は次の通りである。

【調査の実施概要】

実施者	帝京大学 ライフデザイン (五艘クラス)
対象者	10-20 代を中心とする若者
実施期間	2019 年 11 月 12 日(火)~11 月 21 日(木)
実施方法	Google スプレッドシートを利用した Web アンケート
回収サンプル	94 件(うち有効サンプル 94 件)

【調査の項目】

- ・ 性別
- ・ 宇都宮駅の利用頻度
- ・ 宇都宮駅東口のイメージ
- ・ 宇都宮駅周辺で何をするか
- ・ 宇都宮駅周辺に欲しい機能
- ・ どんな街に住みたいか

(2) 調査の結果

アンケート調査の結果、94 の有効サンプルを得た。回答者の性別は、男性 56.4%、女性 43.6% であった。調査項目ごとの結果は次の通りとなった。

宇都宮駅の利用頻度

宇都宮駅の利用頻度として、「毎日」が 28.7%、「月 1~2 回」が 28.7%と、同じ割合で多い結果となった。「その他」は 26.6%となったが、これらは定期的な利用者ではないと考えられる。

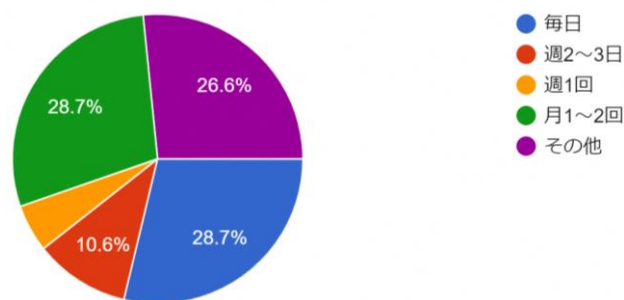


図 2 宇都宮駅東口地区整備事業の概要 (n=94)

宇都宮駅東口のイメージ

宇都宮駅東口のイメージを、ポジティブなイメージとネガティブなイメージの双方から聞いた。ポジティブなイメージとして、「そう思う」「まあそう思う」と肯定的な回答が多かったのは、「賑わいや活気がある」、「飲食する場所が多い」であった。また、「あまりそう思わない」「思わない」と否定的な回答が多かったのは、「おしゃれな感じがする」などであった。一方、ネガティブなイメージとして「そう思う」「まあそう思う」と肯定的な回答が多かったのは、「緑が少ない」であった。なお、「物価が安い」「町の人が優しい」「治安が悪い」という印象は、「どちらともいえない」との回答が多かった。

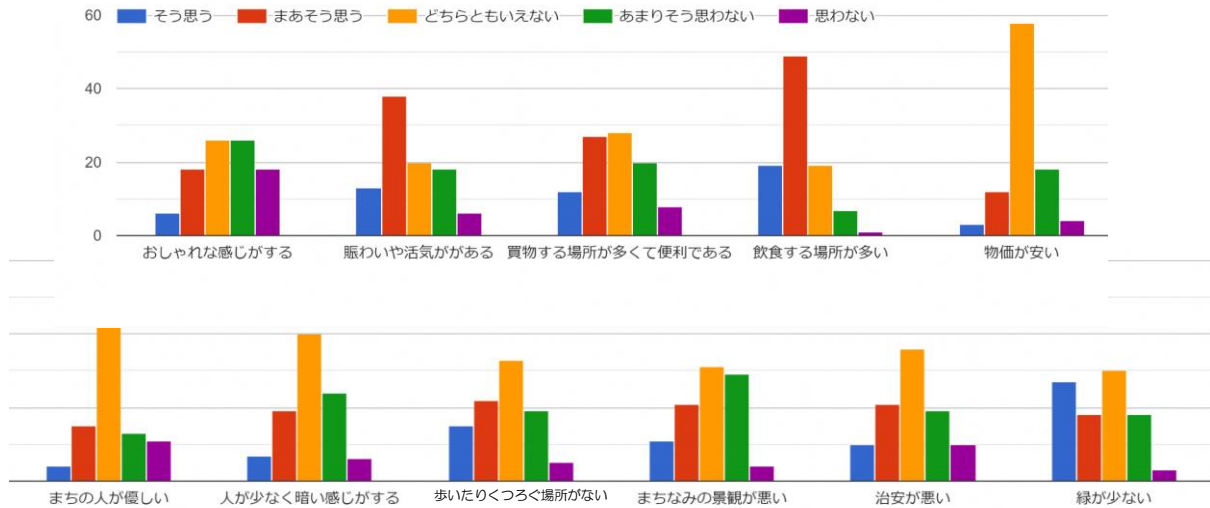


図3 宇都宮駅東口地区整備事業の概要 (n=94)

宇都宮駅周辺で何をするか

宇都宮駅で何をするかという問いにおいては、「食事をする」が60.6%で最も多く、「書店に行く」(28.7%)、「飲み会をする」(27.7%)、「カフェでくつろぐ」(24.5%)が続いた。「交通以外の利用はない」も30.9%と高い割合で回答を得た。

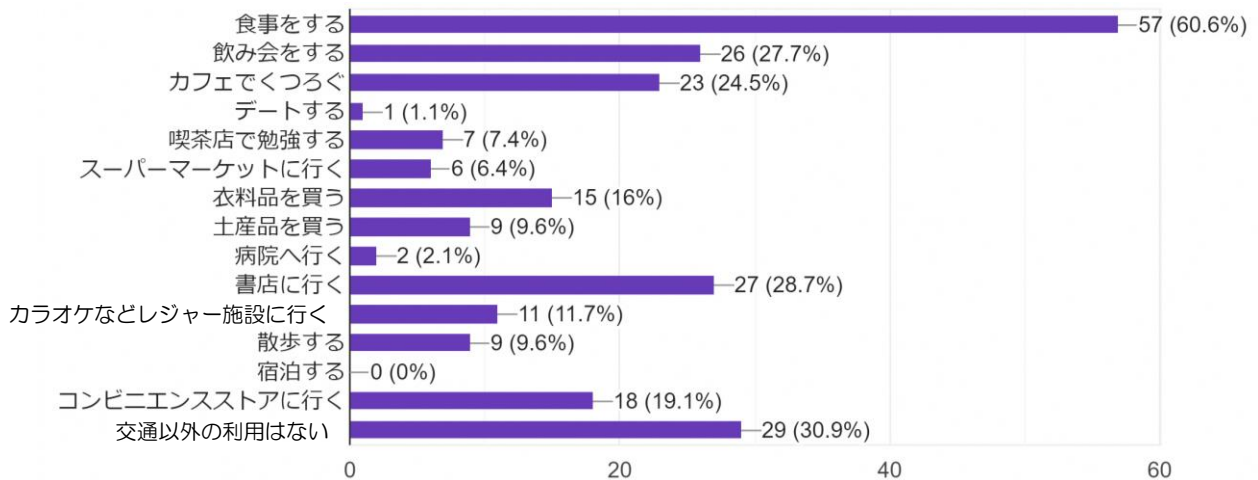


図4 宇都宮駅で何をするか (n=94, ※複数回答)

宇都宮駅に欲しい機能

宇都宮駅に欲しい機能としては、「フリーWiFi」と「広場など無料で休憩できる場所」がそれぞれ43.6%と同じ割合で最も高くなった。続いて「おしゃれなカフェ」が40.4%、「流行の飲食店」が34.0%と続いた。また、「屋外レジャー施設」(29.8%)、「ファッション店」(28.7%)、「まちなかの緑や散歩道」(27.7%)も比較的高い割合となった。

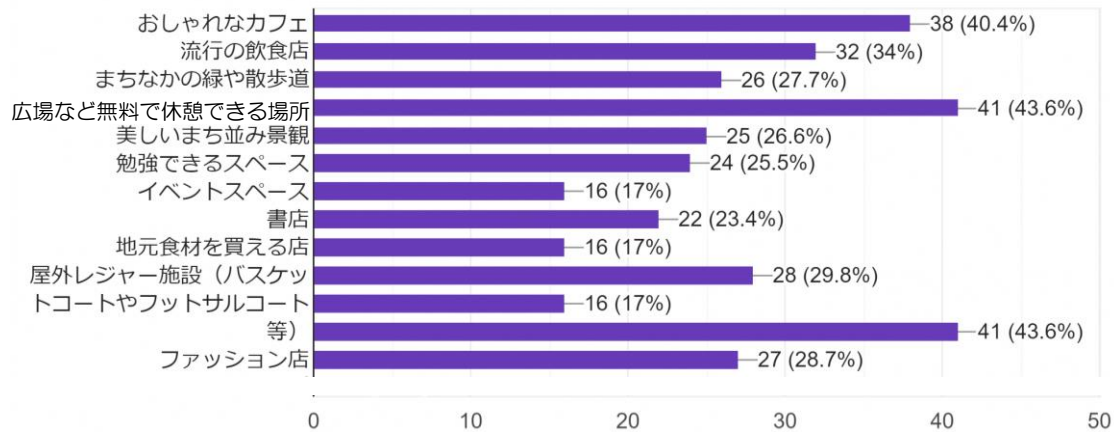


図5 宇都宮駅に欲しい機能 (n=94, ※複数回答)

どんな街に住みたいか

どんな街に住みたいかという問いについては、「とにかく便利なまち」が26.6%で最も多かったものの、「清潔なまち」が22.3%、「のんびりしたまち」が21.3%と高い割合で続く結果となった。

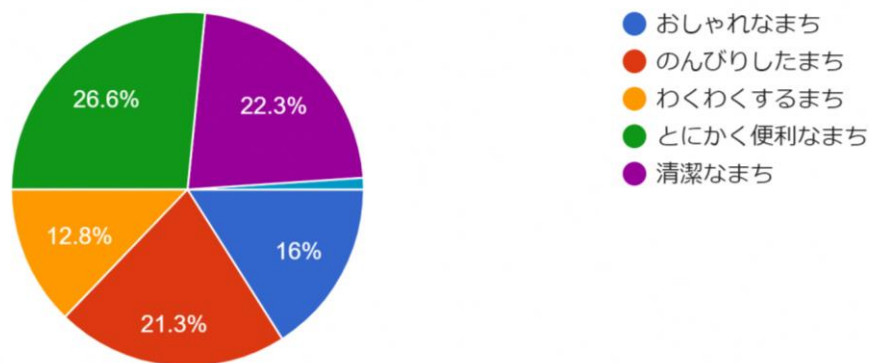


図5 どんな街に住みたいか (n=94)

(3) アンケート調査から明らかになったこと

アンケート結果からわかったことは3点挙げられる。第1に、若者は宇都宮駅のイメージとして飲食できる、賑わっている、という以上のポジティブなイメージをあまり持っていないことである。第2に、現在の若者の宇都宮駅の利用は、交通利用の他に、飲食や書店へ行くなど限定的であり、集客拠点としては機能していないということであった。第3に、若者は宇都宮駅周辺に、フリーWiFi、無料で休憩できる場補、屋外レジャー施設、まちなかの緑や散歩道など、足を止めて活動を行えるような利便性を超えた新たな機能を求めていることもわかった。

3.3 周辺商店街へのインタビュー調査の実施

(1) インタビュー調査の概要と結果

周辺商店街へのインタビュー調査として、複数商店街へのインタビュー実施を予定していたが、宇都宮駅東口周辺では商店街組合の活動が希薄であり、インタビューが難しいことがわかったため、宇都宮駅西口で駅に最も近い商店街へのインタビューを1件のみ実施するに留まった。インタビュー結果は表2の通りである。

表2 宇都宮西口周辺の商店街へのインタビュー結果

対象商店街名	JR 宇都宮駅前商店街
調査実施日	2019年11月11日
調査者	箭原健大、吉成菜里
調査結果	<p>商店街の歴史と顧客の変化</p> <ul style="list-style-type: none">・昭和中期に商店街組合設立（現在は任意組合）。・中心市街地の問題はあるが、駅前ということもあり常に人が多い。最近は一歩アウト旅行者が増加。・かつての店主の多くは1階を餃子店などに貸し、階上に居住。経営をしていないので連携した取り組みは難しくなっている。・後継者不足に悩む商店が多い。 <p>宇都宮駅周辺での商店街間の連携</p> <ul style="list-style-type: none">・西口ではオリオン通りなど協議で顔を合わせることも多いが、東口との連携はない。 <p>宇都宮駅東口の開発に期待すること</p> <ul style="list-style-type: none">・東口の次は西口も駅前を美しく開発してほしい。・東口のコンベンションセンターの集客が常にできるものなのか心配だが、集客できるのであれば西口にもメリットがあるのではないかと <p>若者の宇都宮周辺の街歩きに向けた意見</p> <ul style="list-style-type: none">・まちづくりには若者の意見が重要だが、意見を交わす機会が少ない。ぜひ若者がまちづくりに関わり、多様な世代で意見交換し提案を出せたら良い。・東口開発をきっかけに駅周辺に大学の一部ができれば良い。治安も向上する。

(2) インタビュー調査から明らかになったこと

インタビュー調査からわかったことは、宇都宮駅東口には商店街組合機能が希薄で、面的にまちづくりを考える機会が少ないことである。一方、西口には複数の商店街組合が存在し、活動も参加で、そこに大学生が強く関与することが求められている。今後は宇都宮駅東口に生まれる新たな施設が、商店街や大学生の交流拠点にもなり得ると考えられる。

4. 施策事業の提案

一連の調査結果をもとに、若者が宇都宮を好きになる、より良い駅前のある方に向けて3つの提案を行いたい。それらは、①若者の集う場所の形成としてのフリースペース、②若者がリラックスし健康になる場所の形成としての癒しのスペース、③若者へ新たなカルチャーを発信する場所の形成としてのイベントスペース、の3つの構想である。

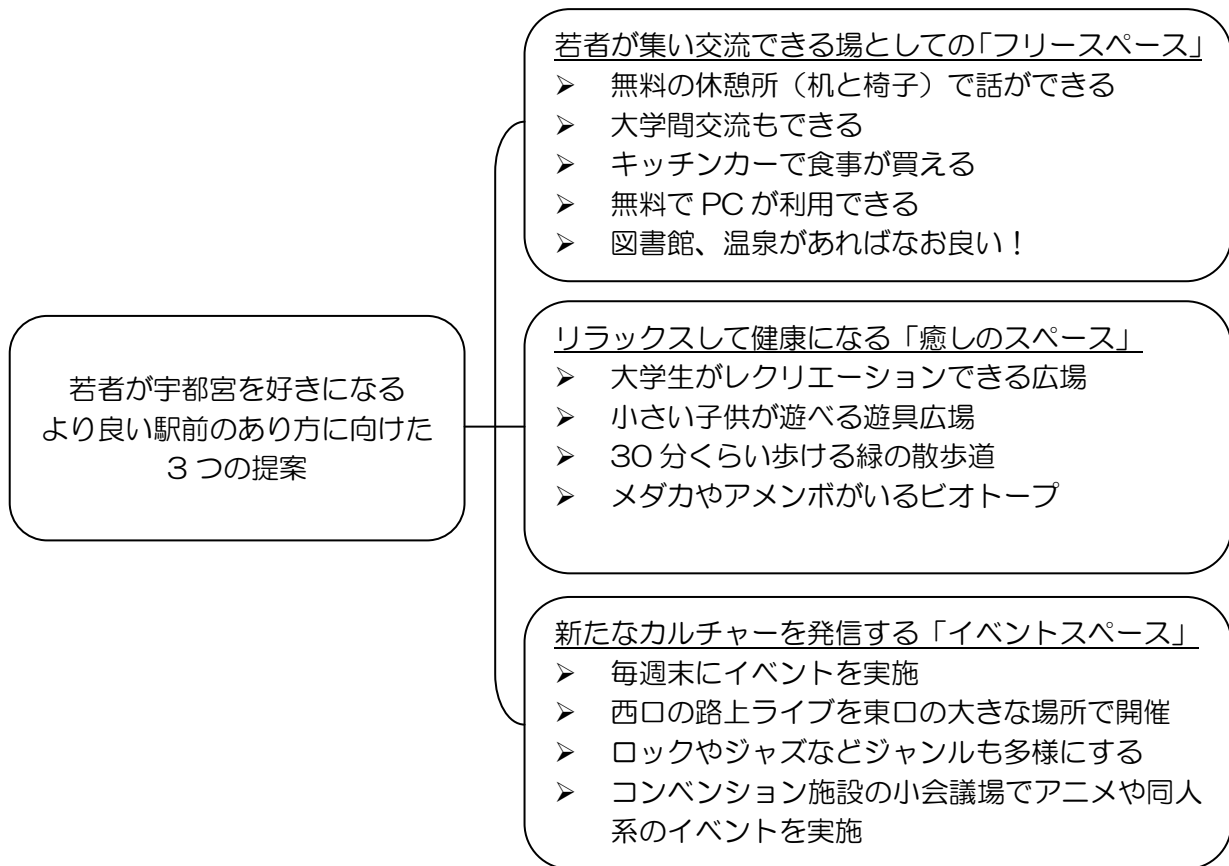


図6 若者が宇都宮を好きになるより良い駅前のある方に向けた3つの提案

宇都宮市の若者は、宇都宮駅東口の開発に対して、これまで一般的に求められてきた駅前の実質的な利便性向上よりも、若者同士の交流やくつろぎ、新たな文化との出会いなど、これまでに無い機能を求めている。3つの提案である「フリースペース」「癒しのスペース」「イベントスペース」の創出は、市内の若者のニーズに応え、将来的に若者が宇都宮市に対して愛着を持つきっかけになるものと考えている。

【参考文献】

- 1) 宇都宮市駅東口開発室：宇都宮駅東口地区整備事業について、2019年11月18日（出張講義資料）